

②⑧集落ぐるみで実施する野生鳥獣による農作物被害対策

【鹿児島県】

- 鳥獣被害の拡大より、耕作放棄地の増加や集落機能の低下が懸念。
- ソフト・ハード両面にわたる総合的な対策の推進。

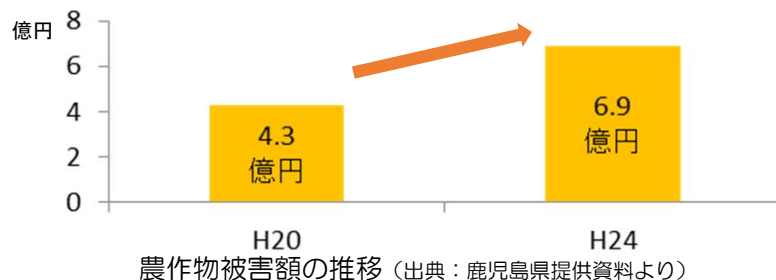
地域概要

- 鹿児島県の農業は、温暖な気候や、南北600 kmに及び広大な県土などを生かして、黒毛和牛や黒豚、お茶、さつまいもなど、多様な農畜産物を生産。
- 平成28年の農業産出額は、全国第3位の4,736億円と日本の食料供給基地として重要な役割を果たしている。

対策の背景

鳥獣被害対応

- 野生鳥獣による農作物被害は、平成20年度からの4年間で増加傾向。
- 獣種別・作物別には、イノシシによる水稻やサツマイモへの被害のほか、シカによる飼料作物や水稻への被害が多く発生。
- 野生鳥獣による農作物被害は、耕作放棄地の拡大や集落機能の低下につながるなど懸念されることから、ソフト・ハード両面にわたる対策が求められていた。



対策の内容・結果

ハード整備

【鳥獣被害防止対策】

- 箱わなや防鳥網の設置 (県内11市町村で設置)
- 侵入防止柵の整備 (県内21市町村で整備)

ソフト整備

【集落ぐるみで取組実施】

- 鳥獣の餌となる放任果樹の剪定方法やネット柵の管理方法など、鳥獣被害対策研修会を実施。
- 取組は、専門家による実践的な助言・指導も行われる。
- 集落ぐるみの取組で指導者育成も図る。

- 対策後の野生鳥獣による農作物被害は、平成24年度以降減少し、平成28年度は約4億円となっている。
- 鳥獣被害防止総合対策交付金を活用した各種対策の実施が、被害の軽減に寄与している。



鳥獣被害対策研修会
(出典：鹿児島県提供資料より)



右上：整備された侵入防止柵
左下：捕獲されたイノシシ
(出典：鹿児島県提供資料より)